

会社概要 (2010年9月30日現在)

商号	栗田工業株式会社 (Kurita Water Industries Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区西新宿三丁目4番7号
設立年月日	1949年7月13日
資本金	134億5,075万円
従業員数	1,547名(連結4,568名)
ホームページアドレス	http://www.kurita.co.jp/
お問い合わせ先	経営企画室 企画部 広報課 TEL.03-3347-3250

クリタ株主通信

2011年3月期 第3四半期

2010.4.1 >>> 2010.12.31

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日 (中間配当を行う場合)	9月30日
基準日	3月31日 (そのほか臨時に必要があるときに は、あらかじめ公告いたします。)
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号 フリーダイヤル 0120-78-2031 (受付時間: 平日9:00～17:00) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部(証券代行事務センター)
(電話照会先)	
(郵便物送付先)	
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社全国各支店 日本証券代行株式会社本店および全国各支店

諸手続きお問い合わせ先(住所変更、単元未満株式の買取請求、未払配当金の照会等)

- ・証券会社の口座に記録された株式の場合
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
ただし、未払配当金の照会については、中央三井信託銀行株式会社(株主名簿管理人)にお申出ください。
- ・特別口座に記録された株式の場合
中央三井信託銀行株式会社(株主名簿管理人および特別口座管理機関)にお申出ください。



この冊子は、適切に管理された森林由来のFSC™認証紙に、植物油インキを使用して印刷しています

栗田工業株式会社

証券コード: 6370

社長ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、
ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2011年3月期の第3四半期(2010年4月1日~2010年12月31日)

の事業概況についてご報告申し上げます。



代表取締役社長

齋藤 浩

2011年3月期 第3四半期の業績について

当社グループをとりまく市場環境は、景気は緩やかに回復しつつあるものの、国内における新規設備投資は依然低い水準のまま推移するなど、引き続き厳しい状況となりました。

当第3四半期における連結業績は、受注高が前年同期比0.8%増の126,004百万円、売上高が同4.7%増の129,237百万円となりました。利益につきましては、営業利益が前年同期比5.3%増の19,385百万円、当第3四半期純利益は同0.3%減の11,984百万円となりました。

事業別に見ますと、水処理薬品事業は国内外で需要が回復したことにより前年同期比で増収となり営業利益も増加しました。一方、水処理装置事業は、超純水製造装置の伸長や国内メンテナンス・サービスの回復により増収となりましたが、営業利益は減益となりました。

当期の取り組みについて

当期は中期経営計画「MP-11 (Make Progress 2011)」の2年目にあたり、「サービス事業の拡大・進化」、「グローバル事業の拡大」、「新たな事業領域の創出・拡大」といった重点施策に取り組んできました。

特にグローバル事業の拡大につきましては、中国・東南アジア・ブラジルといった地域において水処理薬品事業が伸長しています。また水処理装置事業では、電子産業分野における超純水製造装置の受注拡大に加え、中国をはじめとするアジア地域で需要が高まる排水リサイクルの分野で積極的な営業展開に努めています。

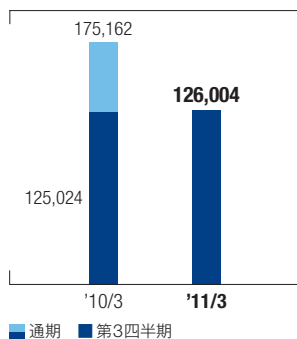
株主・投資家の皆様には、クリタに対する日頃のご高配に心からお礼を申し上げるとともに、今後も一層のご支援をよろしくお願いいたします。

2011年2月

連結業績ハイライト

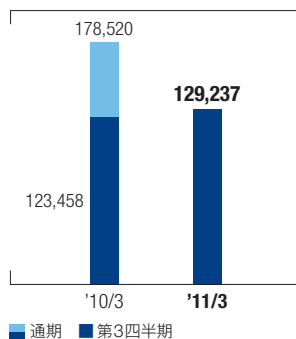
受注高
126,004百万円

(百万円)



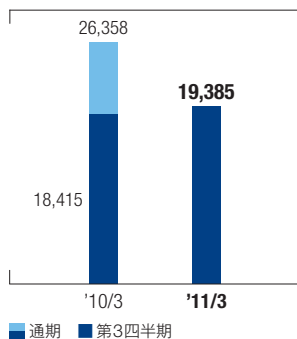
売上高
129,237百万円

(百万円)



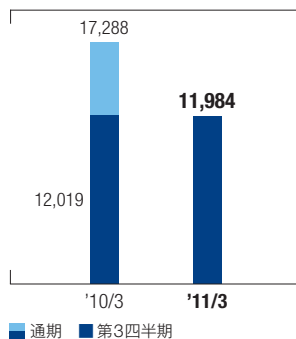
営業利益
19,385百万円

(百万円)



四半期(当期)純利益
11,984百万円

(百万円)



※グラフの金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています

財政状態

要約貸借対照表

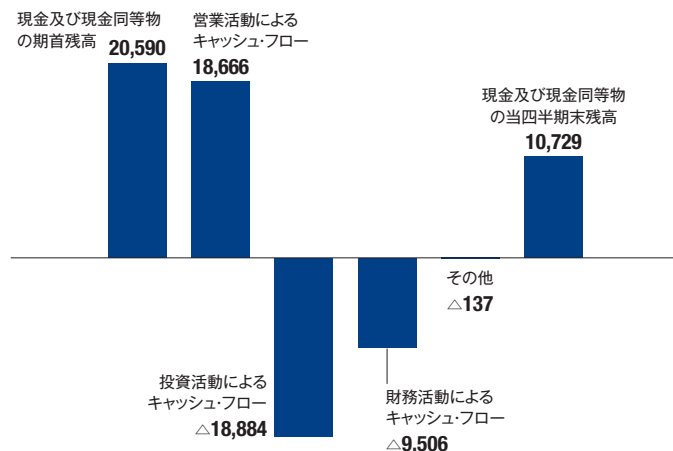
(百万円)

流動資産	112,023	(+2,726)	流動負債	32,285	(△6,307)
固定資産	134,204	(△8,119)	固定負債	19,285	(+197)
			純資産	194,656	(+717)
			総資産	246,227	(△5,393)

※()内は2010年3月末と比較した増減を表示しています

連結キャッシュ・フロー

(百万円)



※グラフの金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています

セグメント別業績ハイライト

水処理薬品事業

国内外でグループ内の連携を強化した営業を展開するとともに、生産性向上、環境負荷低減など顧客の課題を解決する提案営業を推進しました。

国内における受注高・売上高については、顧客工場の操業度改善と提案営業の強化により、主力商品であるボイラ薬品・冷却水薬品・排水処理薬品が増加しました。海外でもアジアを中心に各産業の生産活動が回復したことに加え、営業活動を強化した結果、前年同期に比べ受注高が7.6%、売上高が5.8%増加しました。営業利益は前年同期比22.6%の増加となりました。



水処理装置事業

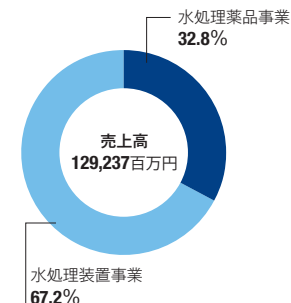
電子産業分野では、海外における超純水製造装置の受注増加や、国内におけるメンテナンス・サービスの需要回復により、受注高が増加しました。また売上高も、超純水製造装置の工事進捗やメンテナンス・サービスの回復により増加しました。

一般産業分野では、受注高については、水処理装置の受注が減少しましたが、メンテナンス・サービスは増加しました。売上高については、大型案件の一巡により水処理装置の売上高が減少し、土壌浄化も減少した一方で、メンテナンス・サービスは増加しました。この結果、前年同期に比べ受注高は2.3%減少、売上高は同4.1%増加し、営業利益は3.9%の減少となりました。

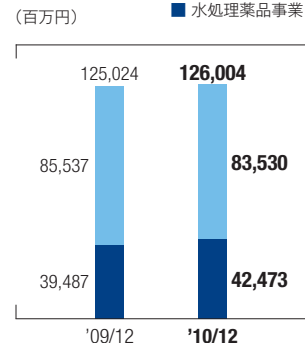


セグメント別業績の推移

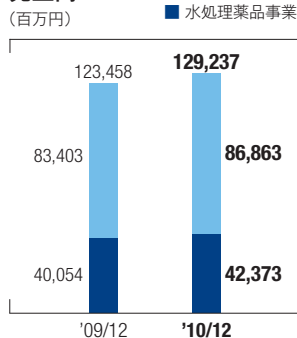
売上高構成比率



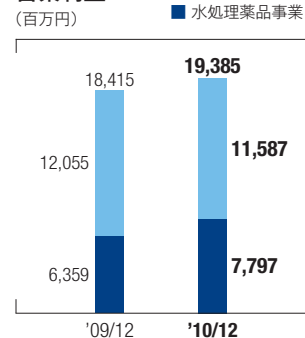
受注高



売上高



営業利益



※グラフの金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています
 ※営業利益合計は、「消去又は全社」を調整の上表示しています

詳細は当社ホームページでご確認ください

URL <http://www.kurita.jp/>

栗田工業 IR

検索

※Yahoo! JapanやGoogle™などの検索サイトからアクセスすることができます



特集は裏面に掲載しています

クリタ独自の汚泥減量技術の組み合わせにより、排水処理から発生する廃棄物である汚泥を大幅に削減します。

→ クリタの強みを活かした成果の一例です
厳しい排水規制をクリアすると同時に工場の排水処理から発生する廃棄物を削減したいお客様に、クリタは独自の汚泥減量技術を用いた排水処理を提案しています。

→ お客様の課題解決 ある製鉄工場の場合

課題	現状分析
製造ラインを新設する際に排水処理から出る廃棄物を増やさず、かつ排水規制をクリアしたい	排水処理から発生する汚泥を削減する技術が必要

求められる廃棄物削減

工場などで発生する排水を処理すると、産業廃棄物となる汚泥が発生します。

汚泥には二種類あり、排水に含まれる重金属などを化学的に処理し、固形物として沈殿させたものを無機汚泥と呼びます。これに対して、排水に含まれる有機物を微生物に食べさせて処理したときに、微生物が増殖して余剰となったものを有機汚泥あるいは余剰汚泥と呼びます。これら汚泥の大半は、脱水した後、埋め立て処分や焼却処分しています。

ところが近年、埋め立て処分場不足や焼却時のCO₂発生が社会的な問題となっています。また、工場を運営する企業にとって廃棄物の処理費用は大きな負担となります。さらに環境意識の高まりに伴い、設備や部材などの調達時により環境負荷の小さい物品を選ぶ“グリーン調達”の動きも企業に浸透してきました。持続可能な社会の実現のために、環境負荷を低減すると同時に経済

的な負担の小さい高付加価値なソリューションが今、求められています。

クリタの提供するソリューション

このような社会や企業のニーズに対して、クリタは独自の汚泥減量技術で応えています。ある製鉄工場のお客様は、新しい製造ラインを建設するにあたり、厳しい排水規制に対応しながら、排水処理から発生する汚泥量が増えないようにしたいと考えていました。そこでクリタは、少ない汚泥量で重金属やフッ素を除去する「KHDS®」と、有機性排水から発生する余剰汚泥を最小化する「バイオリーダーKD」を組み合わせた排水処理システムを提案しました。特に「バイオリーダーKD」は、オゾンの強い酸化力を利用して微生物



産業廃棄物として処分される脱水した汚泥のイメージ



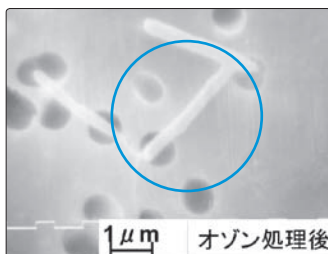
クリタの技術

無機性排水と有機性排水を処理する独自の汚泥減量技術を提案

成果

工場から排出される廃棄物である汚泥を年間730トン*削減

物の細胞壁を破壊し柔らかくした上で、これをまた微生物に食べさせることにより余剰汚泥を大幅に削減するシステムです。



丸で囲んだ部分が、微生物です。微生物の細胞壁が破壊され膨張しています

このシステムの導入により、安定した放流水質を実現するだけでなく、導入しなかった場合に比べ年間730トン*もの廃棄物削減が可能となり、ランニングコストの削減と環境負荷低減ができることにお客様から高い評価をいただきました。この実績に基づきお客様は他の施設への導入を検討するなど、クリタの新たな提案に期待を寄せています。

* 改善策の導入前後での環境負荷の差を1年間分に換算した試算値です

サービス事業の拡大・進化への取り組み

産業界で発生する廃棄物は、社会や企業にとって環境・経済の両面で大きな負担となるもので、持続可能な社会の実現に向けて解決していかなければならない課題のひとつです。今回ご紹介したソリューション事例は、クリタ独自の技術をお客様の実情に合わせ、組み合わせることにより実現したものです。そこでは、技術そのものに加え、数多くの実績に基づいた知見や課題解決力が活かされています。また、窓口となる営業部門のほか、技術・設計部門、開発部門やメンテナンス部門の総合力によるきめ細かなフォロー体制が生んだ提案であるといえます。

このように他社にない総合力を活かしたソリューションの提供が、クリタが目指すサービスのひとつのかたちです。このようなニーズは国内にとどまらず、工業化の進展に伴い廃棄物削減やCO₂削減のニーズが強まるとされる新興国においても、拡大が期待されます。クリタは、さまざまなビジネスチャンスをとらえながら、サービス事業の拡大・進化に取り組んでいきます。



バイオリオーダー-KD